



## 【3月の休館日】

2日月、9日月、16日月、20日金祝、23日月、  
26日困、30日月

イベント情報、資料検索・予約は図書館HPで▶



## 本でデジタルデトックス



紙の本は目に優しく、ページからは、身体に影響を及ぼすブルーライトも出ません。デジタル機器から距離を置き、デトックス（解毒）するにはもってこい。たまには紙の本を読んでみませんか。

### 3月のおはなしかい

#### 【こども図書館本の森】

7日 田 おはなし玉手箱（午前10時～）

12日 困 ひよこのおはなしかい

（午前10時30分～）

21日 田 むかしむかしのおはなし会

（午前10時～）

#### 【郷の本棚やさど図書館】

14日 田 おはなしフレンズ

（午後2時30分～）



## 速報！ 2025年間貸出ランキング TOP 5



2025年に貸出回数が多かった本を紹介します。

まだ読んでいない本は、この機会に是非！

### 【一般図書】

1 「架空犯」 東野圭吾著

2 「クスノキの女神」 東野圭吾著

3 「青い壺」 有吉佐和子著

4 「カフネ」 阿部暁子著

5 「ブラック・ショーマンと覚醒する女たち」

東野圭吾著

### 【児童図書】

1 「大ピンチずかん2」 鈴木のりたけ作

2 「ノラネコぐんだんアイスのくに」 工藤ノリコ著

3 「大ピンチずかん」 鈴木のりたけ作

「ノラネコぐんだんケーキを食べる」 工藤ノリコ著

5 「ノラネコぐんだんおすし屋さん」 工藤ノリコ著



## 時の記憶

シリーズ 244

### 「遺物の整理 其の参」

岡文化振興課（支所）

TEL 43-1111（内線1456）



▲1969年に実施された常陸国分尼寺調査。  
この遺物には、注記は確認できませんでした。

2号前では土器の整理として注記を取り上げました。今回は、そんな注記の歴史に着目しましょう。

1885年に南方熊楠が採集した遺物にも彼のものと思われる注記が既にあります。濱田耕作や後藤守一といった著名な考古学者により書かれた考古学の方法論を示した書物には、注記を墨やエナメルなどを用いるよう示されています。海外の方法論をまねたものと推察されます。

1960年代ごろから、多様な方法が生まれはじめ、1970年代になると現在使用されている白いポスターカラーによる注記が一般化しています。

また、ここまで注記として紹介してきた行為も、時代によって呼ばれ方に違いがあるように、「記入」「書きこみ」などさまざまな呼び方がされています。こちらも1970年代に「注記」の語に統一されていきます。その頃の日本は高度経済成長の真っ只中であり、統一的な基準による整備が志向されていたのかもしれない。ふるさと歴史館では、そうした整理作業の歴史を含めた展示をおこなっています。

### ふるさと歴史館第43回企画展

「吾輩は土器である。名前はもうある。どこで生れたか凡そ見当がつく。」

期間／4月5日回まで

場所／石岡市立ふるさと歴史館

休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）  
（総社1-2-10）

# 文芸いしおか

## いしおか俳句同好会

人日や平和を願う政策を  
福とつけ迷ひ猫飼ふお正月  
玄関に靴のあふれるお正月  
待春や日差し豊かな畑に立ち

## やさど俳句会

初空に「希」一文字指で書く  
永き生つなぐ初日となりけり  
初筑波凜然として晴姿  
盆地とは大きふところ日脚伸ぶ

## いしおか川柳会

五人まで特製ランチ滑り込む  
つっぱっていても孫には目尻下げ  
虫眼鏡君の本音を覗きたい  
人生を最初に母が指揮をとる

## 石岡俚謡会

おんぶだつことおしやまを言って立ってよろけて 人気者  
嫁の後厄 一年無事で お礼参りの 初詣で  
初の売り出し お店が開く 鐘もなります 当たりくじ  
落葉からから 庭駆け回り 隅に集まる 風の道  
親子揃って 億劫がりや 立たぬ立身 苦笑い  
残る宿題 書初め一つ 上手く書けない 「初日の出」

## 投稿作品

冬枯れの山火事怖し 年明けて友住む地域 ニュースとなりぬ  
うたた寝を 覚ます遠くの 除夜の鐘  
冬至過ぎ 障子に射す かげのびて 庭の白梅 咲く春を待つ  
歳明けてデイサービスの仲間入り 老いたる我の愉しき道なり

一色 しのぶ (総社)

小泉 ちよ子 (東光台)

田端 俊行 (三村)

松崎 淑子 (細谷)

鈴木 恵子 (瓦谷)

上林 愛子 (辻)

秋山 亨弘 (宇治会)

石田 誠一郎 (瓦谷)

小林 凪 (総社)

桜井 紀美子 (青田)

小川野 蛙 (府中)

助川 浩史 (府中)

前島 くに子 (貝地)

小川野 蛙 (府中)

醍醐 正夫 (東大橋)

若色 茂 (山崎)

坂下 蜻蛉 (国府)

香俱耶姫 (南台)

荒井 幸子 (山崎)

羽生 好之 (三村)

猪膝 和子 (東石岡)

友部 澄子 (北府中)

## 文化協会だより

### 第60回

### 「石岡市文化協会について」

当協会は、石岡市の文化芸術の振興に寄与することを目的に、複数の文化芸術活動団体により組織された団体で、現在の加盟数は30団体(約2,200人)です。

私たちの活動は各団体の活動のほかに、日々の活動の成果を発表する「石岡市文化祭」や、様々な文化芸術を体験できるイベント「まちの文化一日体験～みて きいて ふれてみよう～」の開催、団体が学校等において文化芸術活動を支援する「出前講座」の実施などを行っています。

様々な分野の団体が加盟していますので、ご興味のある方はお気軽にご連絡ください。各団体の活動内容の詳細につきましては、石岡市公式ホームページをご覧ください。

石岡市公式ホームページはこちらから▶



文化振興課

TEL 43-1111 (内線 1453)

